

事例検討②

テーマ：『視覚障害者誘導用ブロック・エスコートゾーン等の
不適切な改修・敷設状況への対応事例』

発表者：保坂 亨 氏（岐阜県立岐阜盲学校）

【概要】

保坂先生が岐阜盲学校近隣で体験した「道路工事後の横断歩道のエスコートゾーンが警告（点状）ブロックに張り替えられていた事例」と、「交差点における不連続な誘導（線状）ブロックの敷設状況による危険な歩行環境の事例」を挙げていただき、それをもとに、

- ① 誘導用ブロックやエスコートゾーンの敷設の対応事例があるか
- ② 対応するときに知っておくべき法令やガイドラインはあるか
- ③ 歩行訓練士としてあるべき心構えはなにか

等について、30分間ほどグループワークを行った。最後に各グループから発表してもらったところ、

- ① 「議員に相談するとスムーズに対応してもらえることがある」
「利用人数や利用頻度がある程度ないと敷設してもらえない」
「場所により対応者が異なる（県・市・警察など）。対応者が分かっても、敷設の可否やそれにかかる時間は、予算の有無による」
- ② 「市町村ごとにまちづくり条例がある」
「国に『道の相談室』窓口があるため、それを活用する」
- ③ 「視覚障害のリハビリの専門職として、問題点があれば声を出し解決策を提示する。ただし、他機関と対立するのではなく、歩み寄って解決できるようにする」
「普段から横のつながりを持つようにし、解決策のためのアンテナを張っておく」

等の意見が挙げられた。どのグループも和気あいあいと討論や意見交換をする様子が見られ、充実した時間になった。

